

平成30年度の教育活動等に対する学校評価書

平成31年4月3日

学校法人沼津音羽学園沼津あすなろ幼稚園 園長 長倉史男

同学校関係者評価委員会 委員長 青野真弓

- 沼津あすなろ幼稚園の教育目標 心の古里を作ろう
- 本年度の重点目標 ○自然に親しむ子 ○創造性豊かな子 ○思いやりのある子 ○逞しさのある子
- 自己評価に対する学校関係者評価

※自己評価は、A（十分に成果が上がった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で表す

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
自然に親しむ	園庭や園の自然環境に進んで触れさせる	C	<p>○春はダンゴムシに触れ、その動きを楽しんだ。ミニひまわり、チューリップを自分で育て、その生長を感じた。</p> <p>○「自然を探そう」というテーマをもって、枯葉や木の枝を探した。他にも木の実や不思議な形の葉等あれば楽しいのではないかと。</p> <p>○砂場遊びで枯葉を砕いてふりかけにしたり、落ちている木の実をケーキにデコレーションしたりして楽しんだ。でも、蕾はこれから花が咲くので大切だと教えた。</p> <p>▲園庭では、育てている野菜、花などの生長を見て興味を持っていたが、散歩にはなかなか行けずあまり他の自然に触れられなかった。</p>	C	片浜北公園のような大きな公園にもっと行けるとよいと思います。ららぽーと横にできる公園に期待したいです。
	季節に応じた保育を通して自然の様子や変化に気づかせる	B	<p>○毎月の壁面製作や夏野菜、チューリップやヒヤシンスを育て、季節の変化や違いを教えることができた。</p> <p>○富士山の白さや葉の色の变化、水たまりにできている氷などを皆で探し、季節に合った探検を行うようにした。</p> <p>○片浜北公園に秋冬と2回行った。散歩をする中で周りの木々の変化に気づかせた。また、自分自身で気づく子もいた。</p> <p>▲壁面や絵本では触れられたが本物の自然を見て気づくことはあまりなかった。</p>	B	
	子どもが見つけた自然の様子を保育に活かそうとする	C	<p>○絵本で見たザリガニを散歩中に探したが見つからない為保育室でザリガニを飼育した。</p> <p>○見つけた草花や虫を図鑑で調べたり、黒板やシール帳の机に掲示したりした。</p> <p>○砂場で木や葉をトッピングに見立て遊ぶ子が見られた。</p> <p>○子どもが見つけたものを壁面に付け加えた。自然コーナーをつくってスペースを確保することも「自然に親しむ」ことに繋がるのではないかと。</p> <p>▲散歩には数回しか行けなく、自然の様子を保育に活かせなかった。</p> <p>▲秋の楽寿園の遠足でたくさんドングリを拾ったがそのまま持ち帰らせてしまった。</p> <p>□どのような遊びがあるか紹介する。少し残し、保育中に遊ぶ。</p>	C	虫など捕まえた場合、自宅に持ち帰らず、幼稚園で育てるか逃がしてやるとよいと思います。
	自然を生かしたあそびを紹介する	C	<p>○「かんがえる」に載っている遊びを試してみたりした。</p> <p>○ドングリや落ち葉などで制作や遊びをすることはできたが、もう少し取り入れるべきだった。</p> <p>○凧あげをしながら冬の寒くて強い風も遊びに活かして楽しめると伝えたかったがあまり飛ばず残念。</p> <p>▲言葉で紹介するだけで実際にやって見せることができなかった。</p> <p>▲ネイチャーゲームを行いたい、周囲に自然物があまりなく途中であきらめてしまった。園外活動、または園内でもできる遊びを見つけたい。</p>	C	公園などで拾ったり集めたりした草花を使って遊びにつなげられたら良いと思います。
創造性豊かな子	運動会・発表会等の取り組みの中で個々の特性を見付け伸ばす	A	<p>○学年の様子を把握し、内容も子どもたちの発達段階に合わせたものにした。</p> <p>○繰り返し練習していくうちに自分の得意な技等を見つけ自信につなげることができた。</p> <p>○劇、オペレッタは一人一人役があり、役割をもって取り組むことができた。</p> <p>○それぞれの動きがより良いものになるようその子に合った声掛け、援助を行った。見つけ出しきれなかった所もあると思う。</p> <p>○踊り、歌それぞれ一人一人の子が一生懸命練習し、その中で得意とするところに気づき援助できた。</p>	A	発表会では保護者がびっくりするくらい素敵な仕上がりで感動しました。個々に合わせて指導をし、上手に引き出したからだと思っています。
	子どもの発想を尊重したり引き出したりする保育を心がける	B	<p>○子どもの発想や提案に対し他の子が「いいね」と賛同し、そのことをクラス全体で行うことでクラスの団結力が深まった。</p> <p>○子どもたち同士で話し合う機会を増やし、子供の意見を引き出した。</p> <p>○朝の活動終了後「何しようか」と問いかけ、子どもたちに遊び（やること）を決めさせた。→よく発言するようになった。</p> <p>○答えを言うのではなく子どもに問いかけ、考える時間を多く設けた。ちょっとした発言もなるべく拾い、活動が展開できるよう意識した。</p> <p>○活動の中で問いかけをたくさんし、子どもの反応を拾いながら活動を進めた。→発言が多くなった。</p> <p>○子どもの問いかけや発言を受け止めるようにしている。その結果、子どもの願いを自分自身が考えるようになった。</p>	A	

	言葉の発達や言葉への関心を高めたりするような保育や環境づくりをする	B	<ul style="list-style-type: none"> ○黒板に書くときに漢字やカタカナに興味を持ち始めていたためそれらで書きルビをふった。 ○なるべく「はい」「いいえ」で答えさせるのではなく、言葉（文）で言えるように質問の仕方を工夫した。 ○空いた時間には絵本や紙芝居を読むようにした。 ○知らない言葉を紹介したり普通の会話を心がけたりした。難しい言葉は説明を加えるようにしている。 ○聞き慣れない行事名や物の名前は復唱するように促し覚えられるようにした。「ありがとう」「ごめんなさい」の大切さを伝えた。 ○言葉の意味を簡単な言葉に変換しながら伝えることで子どもたちも覚え言葉に関心を持った。黒板に平仮名を書くことも行った。 	A	
	五感を使って遊んだり、ものを作ったり描いたりする楽しさを沢山味わわせる	B	<ul style="list-style-type: none"> ○絵を描くときなどイメージを膨らませてから始めるようにした。廃材、画用紙などを使えるスペースを作った。 ○毎月の壁面製作や制作帳をとおして描く、切る、貼る、塗る、折る等のいろいろなやり方を提案して楽しんだ。 ○壁面製作では家庭でできない絵の具遊び（マープリング、はじき絵）を中心として取り組んだ。 ○粘土や絵の具等の感触を味わう。表現することの楽しさを言葉で表現し楽しんでた。 ○発表会の壁面の草を、手のひらに絵の具を付けてペタペタ。ダイナミックに思いつきやっていた。 	A	幼稚園で教えてもらった工作を自宅で自ら作り出すようになった。折り紙を進んで作るようになりとても楽しんで遊んでいると思います。
	体の動きや音楽的な表現を楽しむ遊びを大切にす	C	<ul style="list-style-type: none"> ○歌が好きなクラスだったので時間があると歌うようにしていた。 ○朝の体操や行事のフォークダンス、運動会、発表会等でお遊戯では保育者自らも楽しんでともに表現した。 ○発表会でインディアンが花を植えたり、忍者が手裏剣を投げる動きを取り入れたら子どもたちがやる気満々になった。 ▲朝の体操や行事ではできたが、個人的にはあまり紹介することができなかった。 □リトミックなどリズムに合わせて体を動かせるよう、朝の時間に行っていきたい。 	B	
思いやりのある子	動物グループの活動を積極的に進める	A	<ul style="list-style-type: none"> ○開始当初は嫌がって泣いている子に対して周りも困って手を出せないようだったが徐々にグループのまとまりができた。 ○活動をとおしてよく関わることができた。 ○異年齢児でペアを組むことが多いため憧れの気持ちやお世話が楽しいという気持ちなど互いに持ち縦のつながりができた。 ○保護者に「縦割り保育いいですね」と言ってもらえた。 ○動物グループをとおして異年齢の触れ合いが増え、年長中児にしてもらったことをまねていることも増えた。 □お弁当（給食）の日をもっと増やした方が年間を通して仲良くなれると思った。 	A	縦割りのグループはとても良いと思います。
	自由遊びの時間を確保し子ども同士が触れあえるようにする	B	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の自由時間は運動カードやなわとびカードを進め、昼は自由遊びの時間を増やした。 ○子ども同士で良く遊べていたと思う。○なるべく外に出る時間を多く設けたため子どもたち同士で遊びを大きく広げられるようになった。 ▲給食の時間がおしてしまい昼の自由時間が確保できなかった。 □朝の後半のバスの子の遊ぶ時間を確保してあげたい。 	A	
	学年の枠にとらわれない保育を意図的に採り入れる	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年長・中児に給食の配膳をしてもらいありがたい。 ○年長にお手伝いをお願いし、その姿を見て学ぶことができていた。 ○あすなるファミリー活動やお当番活動のお手伝いをとおして自然にあこがれの感情を抱くようになった。 ▲クラスだけでなく学年までは枠を広げることができたが、そこまでにとどまってしまった。 ▲時々遊びや昼食で取り入れたが、定期的に設けてもよい気もする。 ▲他学年のリレーや遊戯を見に行くことはあったが直接的な関りは少なかった。 一緒に給食を食べるなどの活動を増やしたい。 	A	
	子どもが絵本好きになるように時間を確保したり環境を整えたりする	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「この本おもしろいよ」と子どもたちに推薦して絵本を見るきっかけ作りをした。 ○紙芝居をたくさん読んだ。1学期は落ち着きが無かったが3学期は静かに見えるようになった。 ○空いた時間は読むようにした。絵本をジャンル分けして置くようにしているため気になる本を選びやすくなったと思う。 ○時間があるときは積極的に読むようにした。集中してよい姿勢で見られるようになった。 ○絵本を見ている子がいたら一緒に見て、話の流れや絵の面白さについて話し合っていて楽しむ。 ▲3学期後半から読む時間を設けられなかった。 	B	

	協力や助け合いを引き出すような学級運営を心がける	B	○担任が声をかけ過ぎず、子ども同士で声を掛け合える環境づくりを心がけた。 ○少しずつ周りの友達に目を向けられるようになってきている。 ○すぐに保育者に頼るのではなく、困っている子がいたら子どもたちが気付けるよう声掛けをして子ども同士で助け合えるようにした。 ○言い方がわからない時は「○○○」と言うんだよと教えた。自分から気づき声をかけてくれる子が予想より増えた。 ○満3歳児の入園をとおしてクラス内にも協力する気持ちが生まれ、進んで助けしてくれる子が増えた。 ○思いやりのある行動をした子には大きな声でほめる。	A	
逞しさのある子	遊びの中でも体力や体の動かし方が身に付くように配慮する	B	○上手な子や頑張っている子を紹介して見本にし、目標を作れるようにした。 ○ドッジボールや鬼ごっこなどルールのある遊びでたくさん体を動かした。 ○スキップやボールの投げ方など時間を作りやり方を伝えた。 ○鬼ごっこやお片付け競争でも走り方や座り方の方法を伝えながら行った。スムーズに体を動かせるようになってきている。	B	
	カードを利用するなどして目標を持ちやすくしたり自ら運動しようとする雰囲気高めたりする	B	○カードを終わらせることよりも自分の今の目標を作り、達成することで次のステップにつなげられるようにした。 ○一人一人がメダリストを目指して積極的に取り組めた。 ○運動が苦手な子もカードを持ってからは「やろう」とする気持ちを持てるようになった。しかし、バス後半の子も挑戦しやすくする配慮が不十分だった。 ○カード使用はないが、クラスで前回りを頑張るなど目標をもって行った。朝の時間に挑戦する姿が見られるようになった。 □年少向けのカードや表を作ってみてもいいのかなと思う。	A	「なわとびカード」「運動がんばりカード」の使用によって子どもの意欲が増すのでとても良いと思います。年少でも達成できる運動カードがあるとよいのでは。
	いろいろな運動遊びを紹介する	B	○カードの終わった子に対して次に挑戦することを紹介して意欲を継続させた。 ○「鬼ごっこ」「ドッジボール」からも遊びを広げると「氷鬼」等の違った遊びになることを伝え、様々な遊びを共にすることができた。 ○年少にとっては新しい遊びばかりのためいくつかの遊びを紹介し、楽しく覚えることができた。 ▲でんぐり返しができない子が多く、声掛けが難しかった。布団の上で遊ぶ経験がすくないのかも。	B	
	食に関心を持たせマナーやバランスのよい食事にも配慮する	B	○カードを使い完食できた喜びを味わわせた。時に量を調節したり白米をブロック状にしたりして励ました。→食べられるようになった。 ○箸の持ち方、座り方という基本的なところに重点を置き、集中して食べられるようにした。良くなってきているのでバランスも意識させたい。 ○苦手なものがある子にはここまでは頑張ろうと励まし、食べたときは大いに褒め自信を持たせた。 ▲椅子の座り方、姿勢に注目し、正しい姿勢での食事を促した。少しずつ直ってきているが時間が経つと崩れてしまう子もいる。	B	
	友だちが少ない子や孤立しがちな子の支援を心がける	B	○時に子ども同士の間に入ったり子ども同士で声をかけられるようにサポートした。あまり孤立する子はいなかった。 ○気が合いそうな子とペアや同じグループにするといった配慮をしたり、仲立ちとして子どもの間に入ったりして皆で遊べるようにした。 ○子ども同士で誘えるように促したり、輪へ自然と入れるよう声掛けをしたりした。クラスの仲間意識が高まったように思う。 ○一人である子がいらないよう他の子にその子の存在を認められるよう声掛けを行った。会話が生まれ、遊びが始まる。	B	
	継続して運動に取り組むような体制作りをする	B	○「やろう」としたことを褒める。少しでもできるようになったら共に喜ぶ等を繰り返して達成感や向上心を育てるようにした。 ○遊びをとおして運動する楽しさを味わえるように促した。戸外が好きな子が増え元気いっぱい遊ぶことができています。 ○朝の体操の後鉄棒や手渡りを目を開けずに行うことで強く握れたり前に回れるようになった。 □年少児用の全員が達成できる運動がんばりカードがあるとよい。	A	
平成31年度に向けての改善策				上記以外の意見(抜粋)	
<p>☆今後も保護者のニーズを的確に把握して園運営に積極的に反映させる。</p> <p>☆月1回の避難訓練を継続、深化させる。訓練をとおして具体的な問題点を洗い出し、職員が共通理解を深めていく。そのことにより、より安全で安心できる避難の方法を積み上げ、万全の体制を整える。</p> <p>☆朝の体操、持久走は多くの改善がなされたが、更に個に応じた細かい配慮をし今後も継続して取り組み、基本的な生活習慣の確立と体力の向上を図っていく。</p> <p>☆運動カードなどを通して運動機能の発達や体力の向上に資することができた。個に合わせた指導法について工夫すると共に指導が前のめりにならないよう発達段階に十分配慮する。年少児用のカードづくりを行う。</p> <p>☆食育を意識したカリキュラムの推進・食事(給食)の摂り方を考え、健康の保持・増進により一層努める。</p> <p>☆カリキュラムの反省を常時行い、新しい試みを積極的に採り入れる。新幼稚園要領の理解を深め保育に活かしていく。</p> <p>☆保育者の指導力向上と園の保育水準向上のため、園内研修に積極的に取り組む。さらに外部の研修会への積極的な参加を促す。</p> <p>☆預かり保育の充実を図りつつ利用についてその利便性を高める。</p> <p>☆年度の重点目標を設定し、教職員のみならず、保護者、園児も共通の目当てに向かって活動する。</p>				<p>☆ホームページの更新を行事や連絡があるときだけでなく、普段の生活などを載せてほしいです。</p> <p>☆昔の遊びを取り入れたらどうでしょう。 例えば笹舟を作ったりたんぼの茎で笛を作ったりと自然の中で遊びを見つける楽しさを教えていただきたいです。子どもたちは珍しくて喜ぶし貴重な体験になると思います。</p> <p>☆子どもの怒られた報告ばかりでなく頑張ってきたことなども教えてもらえて嬉しいです。</p> <p>☆汚れの目立つおもちゃを交換してほしいです。</p>	